

〈解答〉

- ① 1 [例] 多くの戦費のために国民が重い税に苦しんだ
2 ①：犬養毅 ②：五・一五
3 ア
4 イ

配点 ①各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 ポーツマス条約では、韓国における日本の優越権が承認され、日本は長春・旅順間の鉄道の利権と、旅順・大連を中心とする遼東半島の租借権、南樺太などをロシアから得た。日露戦争では、約8.5万人もの日本兵が犠牲となり、人々は重い税金や負担に苦しみながら戦争に協力した。そのため、ロシアから賠償金が得られないことが分かると、政府はロシアに弱腰であるという声が高まり、日比谷焼き打ち事件などの暴動がおこった。
- 2 1931年、満州にいた日本の軍隊は、奉天郊外の柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破する事件をおこし、中国側が行ったことだと主張して攻撃を始め、満州全体を占領した。翌1932年、日本は満州国をつくり、清の最後の皇帝の溥儀を満州国の元首とした。犬養毅首相は、軍部の行動をある程度容認していたが、議会政治を守ろうとしたため、より軍部主導の政治を求めた青年将校らが、1932年5月15日、首相官邸を襲い、犬養毅首相を殺害した。
- 3 中国は、満州事変や満州国の建国が日本の武力侵略であるとして、国際連盟に訴えをおこした。国際連盟は調査をしたうえで、満州国を承認せず日本に軍隊の引き揚げを勧告した。しかし、日本は勧告に反発して1933年に国際連盟からの脱退を通告し、国際的に孤立を深めていった。日本では、このような状況を軍部主導の政治によって打開しようとする動きが強まり、1936年2月26日、陸軍部隊を率いた青年将校が大臣らを殺傷し、首相官邸や国会議事堂周辺などを占拠する事件がおこった。これを二・二六事件という。反乱は鎮圧されたが、軍部はさらに政治的影響力を強めていった。
- 4 日中平和友好条約は1978年に結ばれた。イは1989年のできごとで、アメリカ合衆国とソ連の首脳会談〔マルタ会談〕で冷戦の終結が宣言された。アは1921年、ウは1949年、エは1929年の世界恐慌を切り抜けるために行った政策である。